



ライチョウ

当 NPO では、静岡県からの資料保存事業などの受託事業のほかに、会員である、豊富な自然関係の専門家をお願いして、静岡県内の自然を調べる調査活動を、県や市から受託して行っております。現在実施している代表的な調査を紹介します。

#### 静岡市南アルプス地域の動植物調査

(世界自然遺産登録、ユネスコエコパーク登録、JR リニア新幹線工事に関する調査)

平成 20 年、静岡県、長野県、山梨県の南アルプス周辺の関係 10 市町村により南アルプス世界自然遺産登録推進協議会が発足してから、当 NPO 理事などが静岡市の学術検討委員に指名されました。

そして平成 21 年度より、自然遺産登録のための学術調査を、当 NPO が受託をして、指定の為に必須なクワイテリア項目に合致する重要な動物種を選定し、文献調査及び現地調査を実施してきました。実施した分類群は、哺乳類ではコウモリ類、鳥類でライチョウ、両生類でアカイシサンショウウオ、魚類でヤマトイワナ、昆虫類でクモマツマキチョウ、稀少カミキリ類の 6 群です。

平成 22 年度には、哺乳類ではコウモリ類、魚類でヤマトイワナ、昆虫類で高山蛾、高山バッタ、オサムシ、ゴミムシ類の調査を実施しました。

平成 23 年度には、哺乳類でカワネズミ、魚類でヤマトイワナを実施し、自然遺産登録に向けて活動していったのですが、世界自然遺産の前に、まずユネスコエコパークへの登録



カスミ網設置

を目指そうということになり、平成 24 年度は、南アルプス・井川地域生態系生物多様性(動植物)調査として、鳥類でライチョウ、魚類でヤマトイワナを、井川地域での総合的動植物調査として、井川大仏周辺、大日古道、田代周辺、明神谷林道の 4 か所の現地調査を実施しました。

平成 25 年度には、エコパークへの働きかけが本格化し、申請に向けての準備が進められていきました。そして南アルプス地域生態系・生物多様性(動物)として、哺乳類でコウモリ類、鳥類でライチョウ、魚類でヤマトイワナ、昆虫で甲虫類を調査しました。

この間、平成 23 年より、南アルプスの地下をリニア中央新幹線が通るという計画が発表され、静岡市でも二軒小屋の地下数百メートルをリニアモーターカーがトンネルで通過し、そのトンネルの土砂を排出するため、2 か所の地上からの掘削トンネルと、その 400 万 m<sup>3</sup>にも上る掘削廃土の置き場が計画されました。ユネスコエコパークの申請中でもあり、これらの工事が自然環境にどのように影響するのか、大いに心配されました。

環境アセスメント事業者調査が、JR 東海により実施されて準備書として報告されましたが、トンネル掘削工事による南アルプスエコパークの自然環境保全への懸念から、平成 26 年度に、静岡市から、リニア工事により改変の恐れのある地域の動植物調査の委託がありました。今回の動植物調査では、トンネルの坑口、宿舍の建設場所、排土の置き場など林道東俣線周辺の 9 か所について、希少動植物を中



ヒメホオヒゲコウモリ



捕獲したコウモリの測定



シャーマントラップの準備



昆虫捕獲調査



ホテイラン



ヤマシャクヤク

心とした環境調査を実施しました。植物、菌類、昆虫、魚類、両生・爬虫類、鳥類、哺乳類の各専門家が、樺島や二軒小屋などに滞在しながらの調査が続きました。調査は、5月から11月までの期間に延べ450人日での調査となりました。

これらの調査地は、静岡市街地から車で3時間ほどかかり、悪路と、時には土砂崩れで通行できなかつたりと、調査には悪戦苦闘の連続でした。

特に哺乳類調査は、夜間、コウモリのトラップ調査や早朝の小型哺乳類トラップ回収など

があるため、殆どがテント宿泊となりました。今後、実際に工事が始まった場合、工事が生物に与える影響をどう回避、軽減できるか、非常に難しい選択を迫られます。

なおユネスコエコパークの登録に関しては平成26年8月に無事登録が認められました。この豊かな、南アルプスの自然を、未来永劫子供たちに引き継いでいけるよう、今の我々が注視していかなければなりません。今後とも、NPOとして、この地の自然を守るため、調査は継続して実施していきたいと考えています。